

総務企画委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和4年7月25日（月）から
令和4年7月26日（火）まで

- 2 視察先及び項目
 - (1) 愛知県新城市 若者議会について
 - (2) 愛知県豊橋市 シティプロモーションについて

- 3 参加者 副委員長 渡辺大三
白井亨
村山ひでき
五十嵐京子
宮下誠
斎藤康夫
水上洋志
同行 堤直規（企画政策課長）
廣田豊之（広報秘書課長）
随行 渡辺知子（議会事務局）

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】 令和4年7月25日	【視察先】 愛知県新城市
【視察項目】 若者議会について	
【視察目的】 新城市が行政として実施している「若者議会」の実施に至る経緯、事業の概要、事業の成果、今後の課題等を視察することにより、小金井市の若者施策の充実を図ることを目的とする。	
【事業の概要】 1 ニューキャッスル・アライアンス 会議（ユース部門） 2 新城ユースの会 3 若者政策ワーキング 4 若者条例 5 若者議会条例 6 第1期～第8期若者議会の開催	
【所感、課題等】 委員1 1年の任期ではあるが、常設で継続的に若者の視点で事業を考える会議体があることで、単に「市民参加」という枠組みではなく、地域で若者を育成するという効果があることもよくわかった。会議日数も多く、職員の力量も問われるが、経験した若者がその後に市議になる、OB・OGとして後輩を支援するなど、若者議会を経験することで地域の担い手として自分ごとになっている証拠である。ぜひ小金井市でも取り組みたい。 委員2 若者議会と言っても実態は市長附属の審議会のようなイメージを受けた。若者に市政に関心を持ってもらうことは、どの自治体でも課題と思うが、この取組では市役所の仕事がよくわかるし、実際の結果も見える体験となるので、効果的な方法と思った。本当の議会では具体的な結果が遠くなるわけだが、職業体験的な意味もあると思うと、どこの自治体でも若者の参加の方法として参考になると思う。 委員3 人口減少への対策として「若者が活躍できるまち」を目指すという切実さがあるとはいえ、雇用や子どもの貧困などの社会的背景から若者を支援の対象として位置付け、市政の中で若者の主体としての意識を醸成していこうという姿勢は重要だと思った。若者条例を	

策定し、若者総合政策をつくり取り組んでいることに本気度を感じた。若者の市政への参加は課題であり、今後に生かしたい。

委員 4

新城市は消滅可能性都市に挙げられるなか、前市長が外国の若者のように、市内の若者も自分のまちを誇れるようになってほしいとの思いから、ヨーロッパでは当たり前の「若者議会」を設置した。具体的政策が多数実現しており、市議会のライバル的存在にもなりえている。小金井市もこの制度を策定することによって若者の意見を取り入れるとともに、市政に関心をもって市政参加の機会を提供できると思える。

委員 5

発端は前市長のマニフェスト（若者が活躍するまち）。若者条例、若者議会条例が制度の枠組。委員 20 名、市外委員 5 名、メンター市民、メンター職員、事務局、で構成。単発イベント型ではなく、通年で活動しているのが特徴（年間、全体会議が 15 回、分科会が約 20 回）。毎年メンバーは交代となり、本年度は 8 期目。政策提案に係る予算枠は 1,000 万円で、これまでの若者議会からの提言については、ほぼすべて実現。小金井市でも若者政策の核として実現したい事例であった。

委員 6

上限 1,000 万円の予算提案権が担保されているのが最大の特長。担当部局の多大なサポートもあると推察されるが、ユニークかつ具体性を持った施策や事業が若者議会で提案されるだけで終わることなく実際に実現しているのは素晴らしい。市内にある 2 つの高校に安易に頼らずに、20 歳から 29 歳までの市民 500 人を無作為抽出し案内する、口コミや SNS の活用、駅前やコンビニなどでのポスター告知などの募集方法を参考にしたい。

委員 7

新城市の若者政策については、我が会派の小林正樹議員が 2015 年 3 月に本会議で取り上げ、先進事例として紹介しつつ、当市において若者の声を市政に反映させるべく、仕組みづくりを提案している。視察で印象深かったのは「若者の声を実現させたい」とする市議会を含めた全関係者の熱意だ。それは、上限 1,000 万円にも及ぶ予算提案権のほか、答申に至るまでの若者たちへの配慮や支援によく表れている。度量が広く、実に爽やか。

視 察 概 要

【視察日程】 令和4年7月26日

【視察先】 愛知県豊橋市

【視察項目】 シティプロモーションについて

【視察目的】

豊橋市が実施している多様な「シティプロモーション」施策の実施に至る経緯、事業の概要、事業の成果、今後の課題等を視察することにより、小金井市のシティプロモーション施策の充実を図ることを目的とする。

【事業の概要】

- 1 シティプロモーション戦略ビジョン
- 2 シティプロモーションの合言葉「ええじゃないか豊橋」
- 3 ええじゃないか豊橋まつり
- 4 ええじゃないか豊橋推進計画⇒推進計画2⇒シティプロモーション推進計画
- 5 「豊橋ブランド」ブランディング戦略
- 6 4つのコンテンツ（手筒花火／路面電車／のんほいパーク／とよはし食文化）
- 7 オリパラをきっかけとしたプロモーション
- 8 ええじゃないか豊橋伝播隊DOEE
- 9 映画のまち・ロケのまち豊橋
- 10 朝ドラ「エール」の活用
- 11 ふるさと大使
- 12 首都圏活動センター
- 13 豊橋の偉人
- 14 「豊住」動画／移住者インタビュー／SNS活用



【所感、課題等】

委員1

キラーコンテンツがない中でも、豊富な地域資源の中から核となる4つのコンテンツを位置付け、また豊橋発祥の「ええじゃないか」という言葉をプロモーションに活用するなど、試行錯誤しながら取り組んでおられることが質疑を含めてよくわかった。ブランドづくりはこれからということだが、何よりも、ビジョンや推進計画をしっかりと策定し改定していることと、その計画をコンサルに委託せずに自前で作っている点は見習いたい。

委員2

約10年間の取組をお聞きし、しっかりと豊橋の良さを内外に示そうとしている意欲は

伝わってきた。その中で、「まあまあ都会でまあまあ田舎」というキャッチフレーズに親近感を覚え、素敵なまちなのに、まちの特徴にこれというインパクトが見つからないと悩む担当者の方々の思いにも共感するものを感じた。今は、組織再編で担当課がなくなっているようだが、課題に取り組む姿勢は勉強になった。

委員 3

2009年にシティプロモーション戦略ビジョンを策定し、シティプロモーション課によって促進してきたことに先駆性と位置付けの高さを感じた。コンサルなどを活用せず、自らの努力で進めてきたとのこと。自ら考え、試行錯誤しながら実行することで経験を積み重ねていくことは重要だと思った。豊富な地域資源をうまく活用し、PRにつなげていると思う。コンテンツやブランディング戦略など学ぶ点があった。今後に生かしたい。

委員 4

「豊橋市は豊かな自然、立地の良さ、バランスがとれた産業構造、歴史と伝統ある文化をもっている。しかし、市の認知度、イメージの浸透度が低い、魅力、優位性が十分発信できていない。」という現状と課題から「豊橋市シティプロモーション戦略ビジョン」を策定し戦略の方向性を定めた。小金井市でも同様な課題が存在する。市民が誇りを持ち、住み続けることができるようなイメージが定着できる取組を進める必要がある。

委員 5

生活満足度全国1位（2019年）の豊橋市。豊橋と聞いて連想するものがない70%（2007年）という認知度不足が課題で、2010年を「シティプロモーション元年」として、「ええじゃないか豊橋」を合言葉に施策を本格化。核としては、「手筒花火」「路面電車」「のんほいパーク（動植物公園）」「とよはし食文化（カレーうどんなど）」。テーマごとの動画の活用に関しては、担当職員の創意工夫があり、小金井市でも取り組みたい。

委員 6

最近、テレビドラマやバラエティ番組で豊橋市を目にすることが多く、シティプロモーションの成果だったのだと納得した。市民が企画する豊橋市の魅力を伝えるイベント等を、市が支援する豊橋市シティプロモーション認定事業は、広報支援、「ええじゃないか豊橋」ロゴマークの使用許可、シティプロモーショングッズ（法被、旗など）の貸し出しなど行っている。市政施行周年事業で実施する冠事業に近く比較的導入しやすいはずだ。

委員 7

「他自治体を単に真似るだけでは成功しない」と言われるシティプロモーションである。今回の視察では、何とかして取組みのコアとなる考え方を習得したいと臨ませていただいた。結果、市民の愛着度や住民が自慢できること、市民自身が理解してくれることなど、やはり基本的なことが重要なのだと改めて納得した。さらに、「トライ&エラーの繰り返し」との担当者の言葉からは、積み上げてきたご苦労が伝わってきて、感銘を受けた。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 323,280円

〈内 訳〉 委員旅費 @40,660円 ×7人 = 284,620円
1人当たり旅費 交通費 20,060円
宿泊費 15,000円
日 当 5,600円

職員旅費 @38,660円 ×1人 = 38,660円
1人当たり旅費 交通費 20,060円
宿泊費 15,000円
日 当 3,600円

2 執 行 額 323,280円

〈内 訳〉 交通費 160,480円
宿泊費 120,000円
日 当 42,800円

3 差 引 残 0円